



諸遊壤司議員

住宅地図入り電話帳の早期配布を

町独自の発行は困難

問 合併して一年余り、牛歩のごとくであるが、旧三地区の住民が文化面、スポーツ面等で交流が進みつつある。しかし、地域間交流が始まったとはいえ、まだ他地区の集落名や家々の居住地が不明のため、町民から多くの不満の声を聞く。

新大山町内の住宅地図と電話帳を一緒にしたものを早急に無料で配布す

べきと思う。町で直接出

来ないのなら、商工会等に補助金を出すなどの方法もある。このことがなお一層の地域間交流を推し進めることと思う。

答

(山口町長)

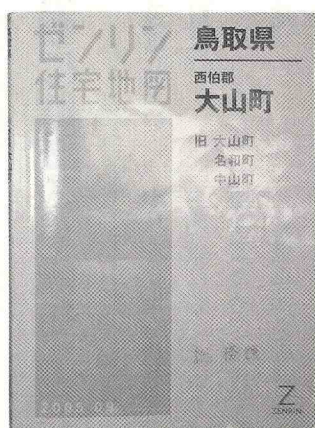
個人の情報は個人の価値観の中でいろいろな思いがあり、個人情報は大切にしなければならぬし、行政としても守って

いかなくはならない。

また、電話帳や住宅地図に掲載された者や建物の変更・追加・抹消などの事由が生じた際のデータ管理・簿冊更新の課題・相当な労力・商工会への補助金も含め多額な経費支出などを考えれば、現時点で大山町で独自に発行することは困難であると判断する。



旧3町の住宅地図入り電話帳



ゼンリンの住宅地図

総合計画(案)に2つの提言

重要性は認識している

問

合併後初めての総合計画(案)が示された。本計画は合併時に策定した新町まちづくりプラン(新町建設計画)を踏まえて本年より平成27年度までの10年間の基本構想であるが、2点大きな課題が欠落していると思う。

(1)妻木晩田遺跡は平成11年12月国の史跡に指定された。約2000年〜1700年前に栄えた152haに及ぶ国内最大級の弥生時代の集落跡である。面積の9割近い130haが大山町地内にあるにもかかわらず活用も計画もない。佐賀県の吉野ヶ里

遺跡は今年の3月、三田川町と東背振村が合併し、吉野ヶ里町が誕生し歴史資源を活かしたまちづくりをしようとしている。

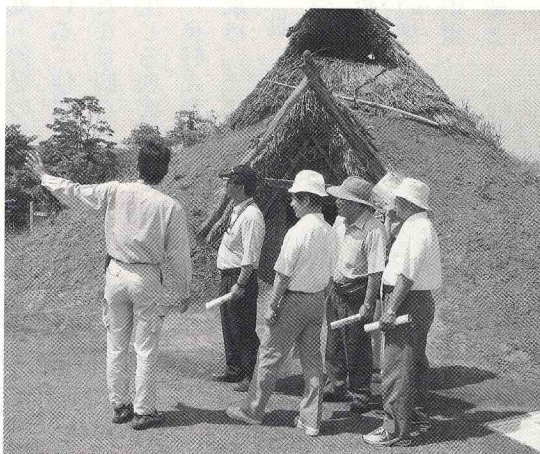
(2)総合計画の中に「大山恵みの里構想」がある。基本的には大山を中心として町内で生産される農畜産物・海産物に大山ブランドを付けて大いに売り込もうという意識は認めるが、売っていく常設の施設(道の駅)の計画がない。また山陰道の無料化に伴い、淀江・大山インター

1の料金所の跡地(県有地2ha)の活用を考えてどうか。隣接の市町が計画案を出しているの、我が町も遅れることなく計画・実施案を早急に示すべきである。

答

(山口町長)

大山町総合計画基本構



妻木晩田遺跡の活用を

想(案)は、本町の今後10年間にわたる姿を展望した重要な計画である。(1)主要アクセス経路や関連商業施設の立地等により、遺跡が米子市に存在するという認識が広く、大変迷惑である。今後妻木晩田遺跡活用実行委員会等で協議を重ね、本町

発展の貴重な資源と位置づけ、整備活用に努める。(2)道の駅の重要性は十分認識している。国土交通省、県にも強い想いを伝えていく。「山陰道大山周辺利用促進協議会」を新たに立ち上げ建設位置についてさらに検討を始めたいところである。